



株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2021年3月期 決算 説明資料

2021年5月26日

<目次>

- 事業分野
- 2021年3月期 決算概要
- 2022年3月期 今期業績見通し
- 注力分野の状況 (IoT・AI・ロボット)

事業分野 (BF)

社会の安全と発展に、かけがえのない一流のソフトウェア会社となる

社会の安全 (社会インフラ)

社会の発展 (夢の追求)

社会基盤システム

高度交通システム、防衛、医療、環境エネルギー、官公庁向けシステムなど社会公共性の高い分野のシステムを開発



宇宙先端システム

科学衛星や惑星探査機の搭載システムなど宇宙天文分野、ロボットやAIなど先端分野のソフトウェアを開発



モバイルネットワーク

キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発



インターネット

非接触IC搭載ソフトウェア、IoT関連技術、AR・VR・MRなどのリアリティ技術、クラウドシステムなどを開発



リアルタイム技術が得意とする分野

世の中をもっと便利に、安全にするソフトウェアを開発

高度交通システム、防衛関連システム、医療関連システム、
環境エネルギー関連システム、位置情報管理システム、官公庁向けシステムなどを開発しています。

高度交通システム ETC/VICS (渋滞情報)



位置情報サービス (ロードサービス・緊急通報)



緊急医療支援システム



医薬品・医療機器 安全対策支援システム



防衛・官公庁向け システム



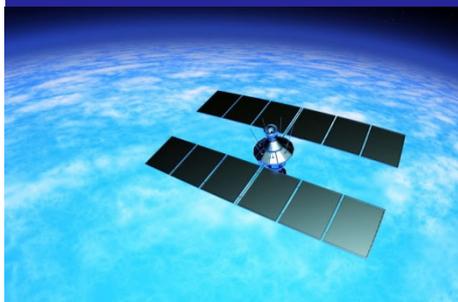
環境エネルギー マネジメントシステム



人類の夢を叶えるソフトウェアの開発に挑戦

科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどの開発と、次世代ロボットに関する研究開発、サービスロボットシステムの開発をしています。

衛星搭載システム
(ひので、はやぶさ2など)



スペースデブリ除去衛星
(フライト制御ソフト開発)



国際宇宙ステーション
「きぼう」日本実験棟実験装置



天体望遠鏡制御システム
(すばる望遠鏡など)



ロボット標準化技術
(RTモデルウェア、ROS)



車両自動走行



自動制御ソフトウェア
(船舶、ドローン、トラクター)



研究機関向けシステム
(NICT、JAXA、大学など)



次世代のエッジデバイスと IoT のソフトウェア

キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、IoT 関連システム、MR など次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発しています。

モバイルデバイス搭載機能



非接触 IC 搭載 ソフトウェア



キャッシュレス モバイル決済端末



車載インフォテインメント ソフトウェア



IoT 暑熱作業リスク管理システム



クラボウ Smartfit for work

IoT 海中資源管理

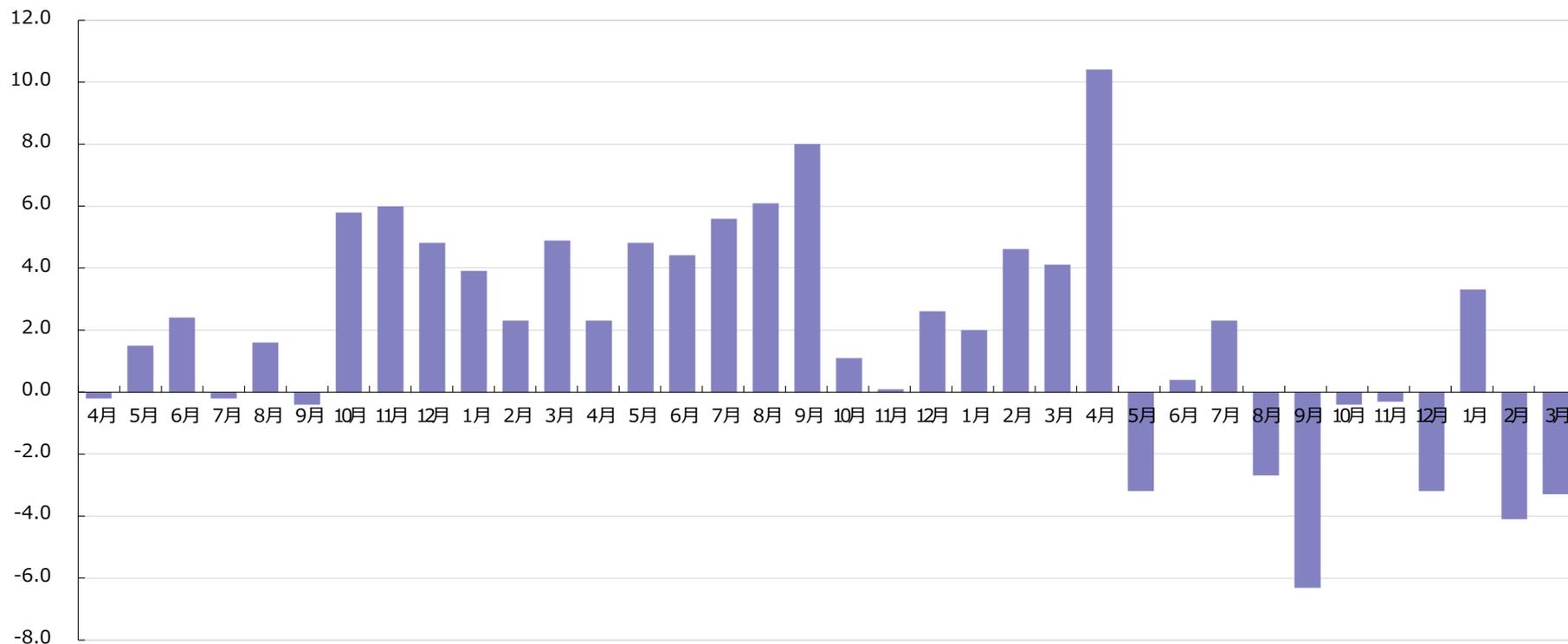


2021年3月期 決算概要

2021年3月期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



前年同月比の月別売上高は、2020年8月以降、1月を除いて減少しており、新型コロナウイルス感染症による影響が継続していると推察される。

2021年3月期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で4期連続の増収増益

売上高	: <u>6, 525</u> 百万円	前期比	2.9%増		
営業利益	: <u>1, 011</u> 百万円	前期比	8.7%増	利益率	15.5%
経常利益	: <u>1, 054</u> 百万円	前期比	5.5%増	利益率	16.2%
当期純利益	: <u>727</u> 百万円	前期比	5.8%増		

受注高、受注残高ともに過去最高、前年同期比で受注高は6期連続の増加

受注高	: <u>6, 744</u> 百万円	前期比	1.5%増
受注残高	: <u>2, 564</u> 百万円	前期比	9.3%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 宇宙先端システムB F、社会基盤システムB Fの売上高比率が上昇し、モバイルネットワークB F、インターネットB Fが減少するなど、需要構造の変化が継続した。
 - 2003年より注力してきたロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発案件が増加した宇宙先端システムB Fと医療分野を含めた官公庁案件が好調な社会基盤システムB Fが大幅に増加した。
 - モバイルネットワークB FとインターネットB Fは、大型開発案件の減少や商談状況に迅速に対応した社内資源の再配分により減少した。
- 当初は新型コロナウイルス感染症による影響により受注高が前年同期比で減少していたが、通期では増加に転じ、それ以降の商談状況は回復した。

損益計算書

	2020年3月期 (百万円)	2021年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(10月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	6,343	6,525	102.9	6,450	101.2
売上原価	4,568	4,676	102.4	4,670	100.1
売上総利益	1,775	1,849	104.2	1,780	103.9
販売管理費	844	838	99.3	860	97.5
営業利益 (営業利益率)	930 (14.7%)	1,011 (15.5%)	108.7	920 (14.3%)	109.9
経常利益 (経常利益率)	999 (15.8%)	1,054 (16.2%)	105.5	960 (14.9%)	109.8
当期純利益	687	727	105.8	670	108.6

売上原価 社員数の増加や待遇向上などにより人件費が増加、外注費と仕入高も増加
(外注費 20.7億円、前期比2.1%増、売上高外注比率31.8%、前期32.0%)

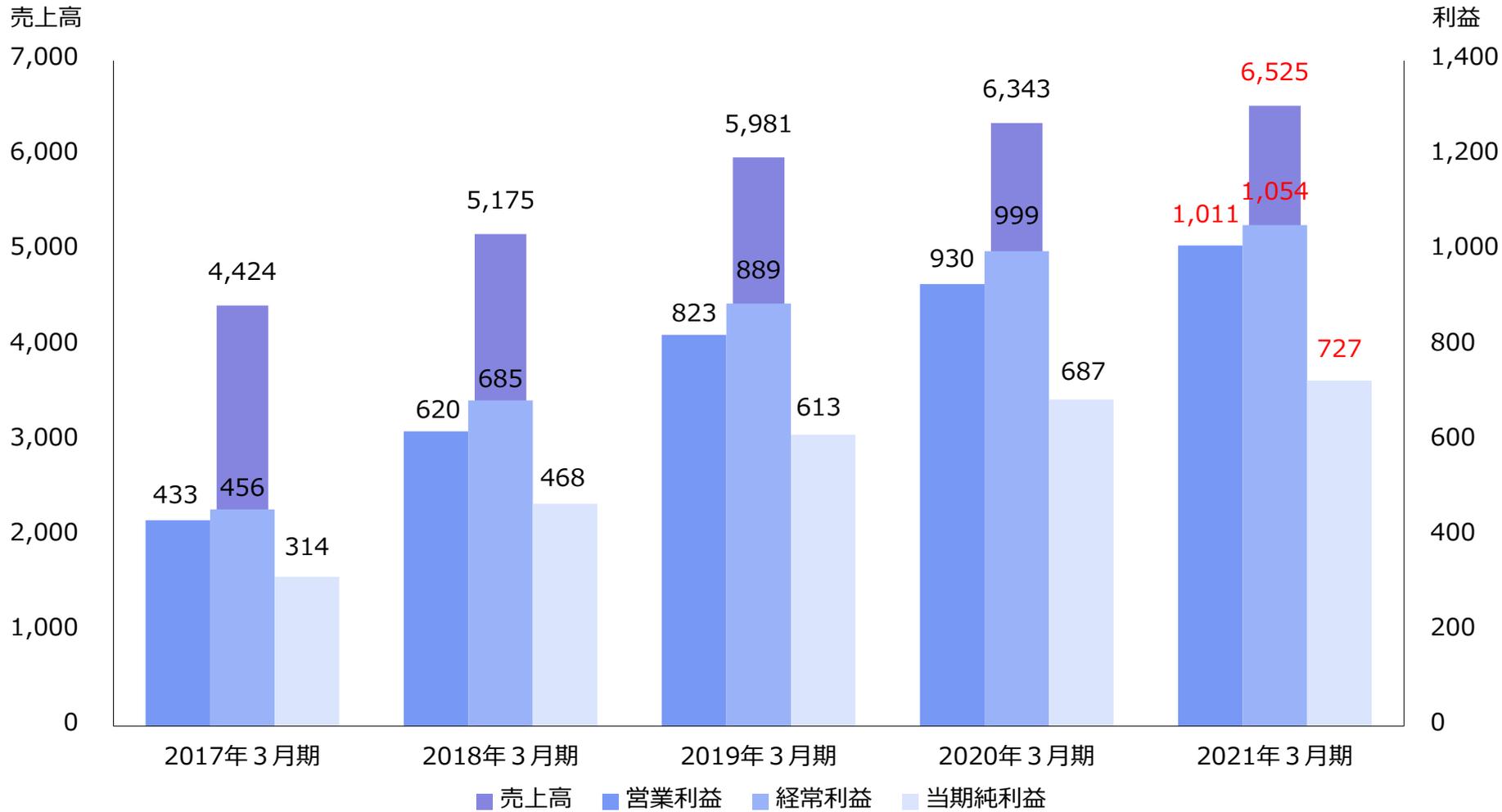
販売管理費 労務費や採用費などが増加したが、研究開発費が減少
(研究開発費は48百万円で、前期比で32.3%減少)

営業外損益 研究開発の補助金収入がなくなり(前期は20百万円)、受取出向料も減少

決算業績推移（過去5年）

4期連続の増収増益で、売上高、利益ともに過去最高

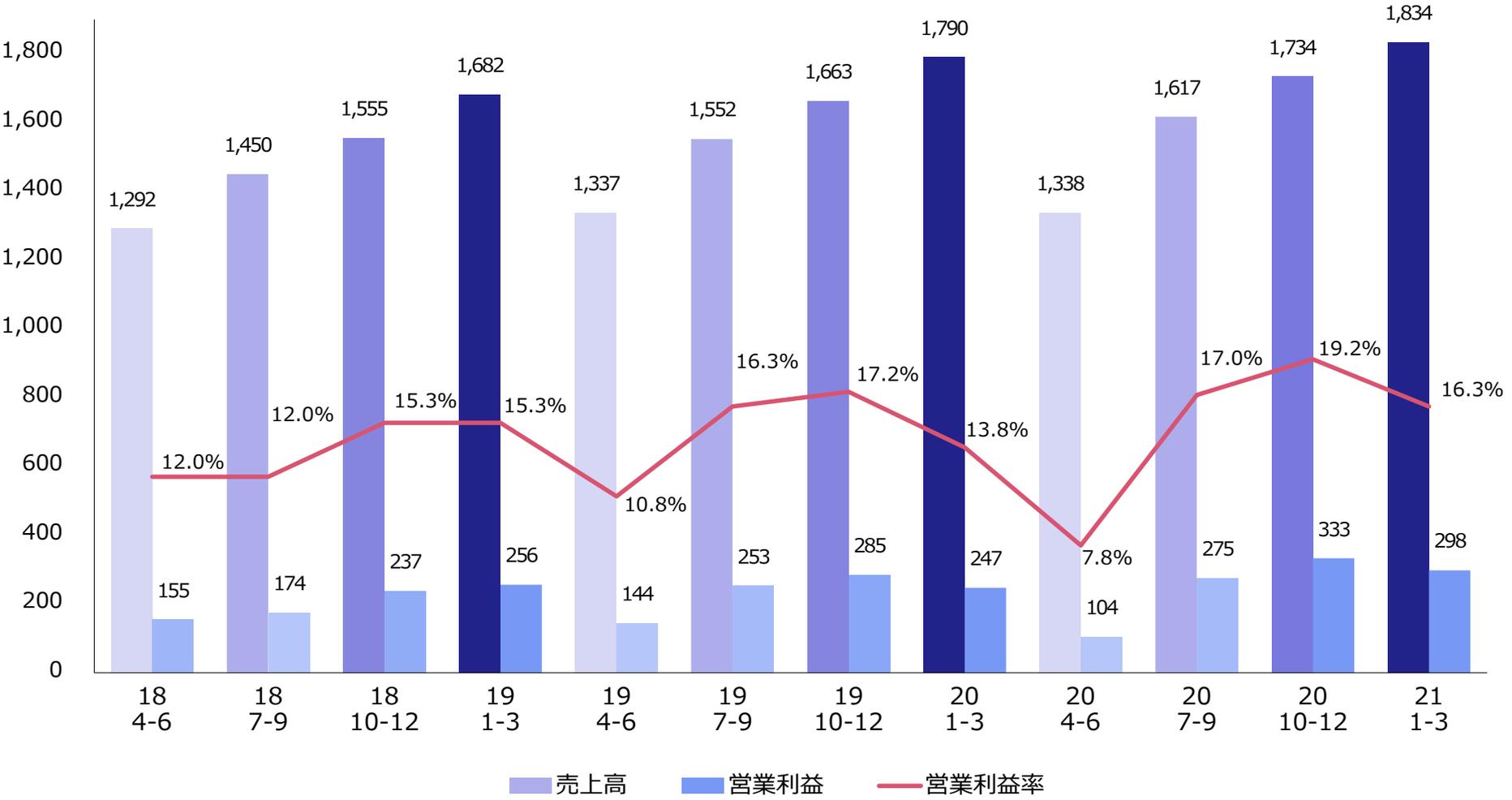
(単位：百万円)



四半期業績推移 (P L)

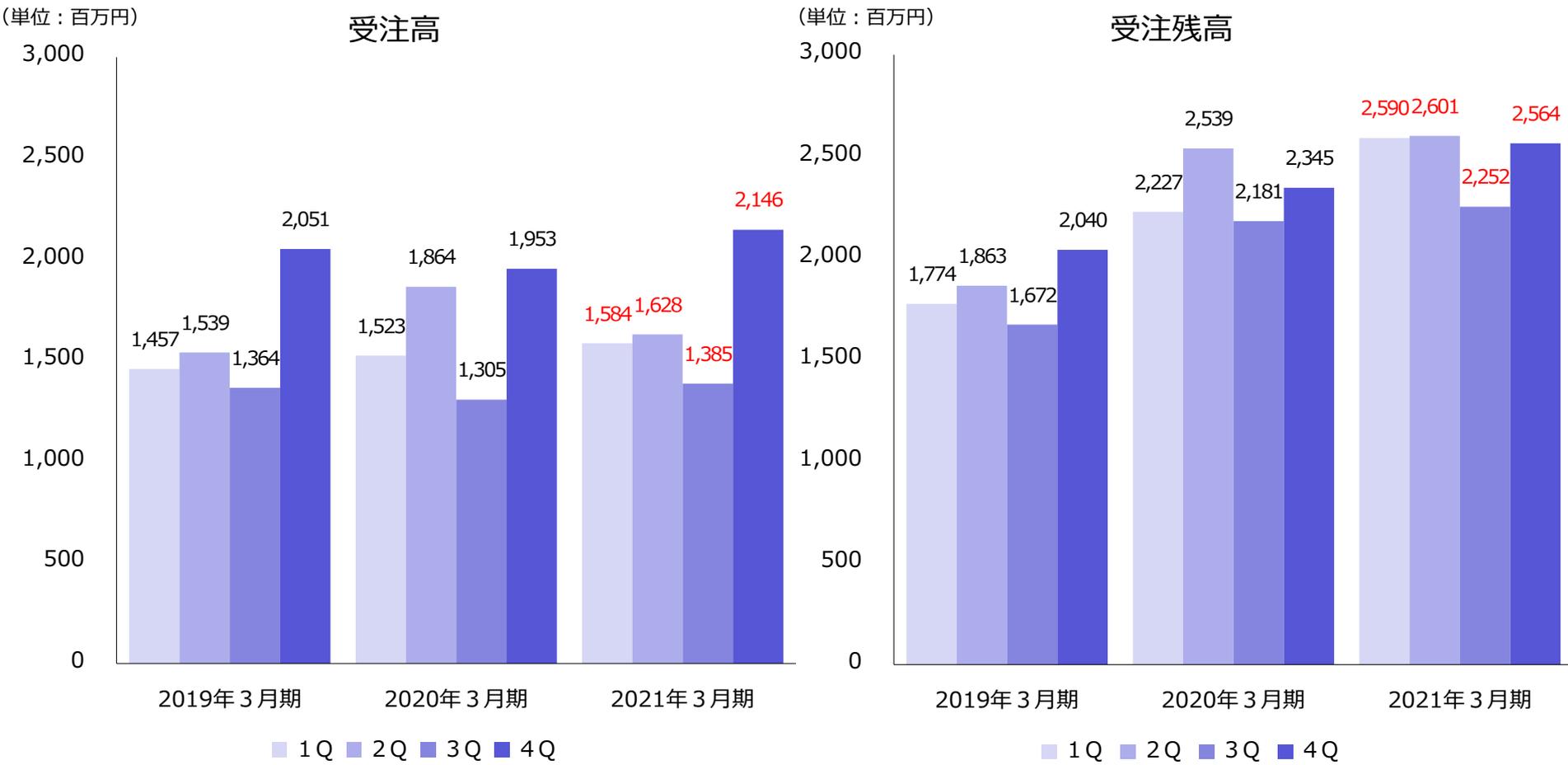
第1四半期は増収減益となったが、第2四半期以降は増収増益

(単位：百万円)



四半期業績推移（受注状況）

受注高は第2四半期を除き過去最高、受注残高は全ての四半期で過去最高



B F 別の状況

宇宙先端システムBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期		2021年3月期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1,243	19.6	979	15.0	78.8
インターネット	1,226	19.3	1,042	16.0	85.0
社会基盤システム	1,769	27.9	1,987	30.4	112.3
宇宙先端システム	2,104	33.2	2,516	38.6	119.6
合計	6,343	100.0	6,525	100.0	102.9

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が増加したが、モバイル決済関連の開発が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が減少
- 社会基盤システムBFは、交通分野のモバイル決済関連の開発が減少したが、医療を含めた官公庁系の開発が好調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調

B F 別構成比

宇宙先端システムB F と社会基盤システムB F が拡大

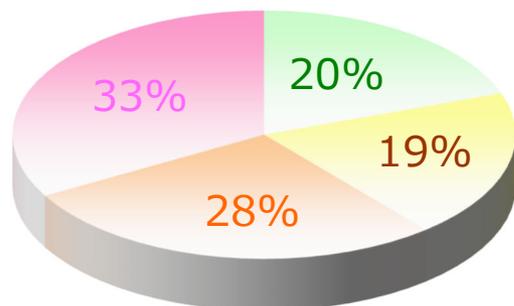
宇宙先端システムB F

車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調

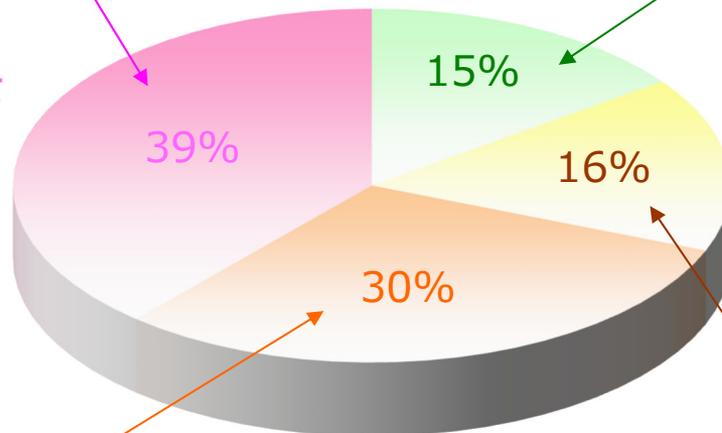
モバイルネットワークB F

移動体通信事業者向けのサービス系の開発が増加、モバイル決済関連の開発が減少

需要構造の変化に応じて
柔軟に対応



2020年3月期



2021年3月期

社会基盤システムB F

交通分野のモバイル決済関連の開発が減少、医療を含めた官公庁系の開発が増加

インターネットB F

民間企業向けの大型案件の開発が減少

BF別受注状況

社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期		2021年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1, 218	299	839	68.9	159	53.3
インターネット	1, 246	293	1, 116	89.6	367	125.2
社会基盤システム	1, 841	1, 161	2, 282	123.9	1, 455	125.4
宇宙先端システム	2, 341	591	2, 506	107.0	581	98.3
合計	6, 648	2, 345	6, 744	101.5	2, 564	109.3

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,062百万円、前期(2,014百万円)と比較し2.4%の増加)

- モバイルネットワークBFは、モバイル決裁関連の開発案件が減少したため、受注高は大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型開発が減少したため、受注高は減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件が増加したため、受注高は大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、ロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発が増加したため、受注高は増加

期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2020年3月末日	2021年3月末日	増減
流動資産	5,843	6,159	316
固定資産	1,670	1,775	104
流動負債	1,167	1,220	53
固定負債	96	138	42
純資産	6,251	6,575	324
総資産	7,514	7,935	420
自己資本比率	83.2%	82.9%	▲0.3%
流動比率	500.7%	504.6%	3.9%
固定比率	26.7%	27.0%	0.3%

流動資産 売掛金の増加などによる増加

固定資産 投資有価証券、前払年金費用の増加などによる増加

流動負債 買掛金、賞与引当金、未払法人税等の増加などによる増加

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	843	▲52	▲895
投資活動によるキャッシュ・フロー	73	▲40	▲113
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲244	▲423	▲178
現金及び同等物の増減額	671	▲515	▲1,187
現金及び同等物期末残高	3,369	2,853	▲515

営業キャッシュ・フロー

3月末に検収が集中し、売上債権が大幅に増加したことによる収入減

投資キャッシュ・フロー

投資有価証券の取得による支出増

財務キャッシュ・フロー

配当金支払、自己株式取得による支出増

2022年3月期 今期業績見通し

ソフトウェアが主役の時代へ

「ソフト重視」「デジタル化」「ソフト主役」の3つのキーワード

「IT人材争奪戦は第2章 → ソフト重視の時代へ」

- 人工知能（AI）をはじめ、目まぐるしい技術革新に対応できる即戦力の確保が急務となっている。中途採用では間に合わず、M&Aの件数が大幅に増加してきた。
- 中途採用の増加で内製化傾向が強まっているが、ソフトの技術が難しくなり、ユーザだけでは対応できない。専門性が高い技術特化型の開発だけが外部に発注される時代が到来している。

「新型コロナウイルス後 → ニューノーマルはデジタル化へ」

- 新型コロナ後は、デジタル化、リモート化、省人化など、ITへのニーズは高まる。
- セックの技術を新型コロナ後の需要に対応させ、強みを相互に補完するようなアライアンスを組むことで対応していく。

「プログラミング的思考の義務教育化 → ソフト主役の時代へ」

- IT人材の不足に対して、国をあげての「ソフト教育」が今期より始まった。
- 不足するのはAIやIoTなどの先端技術分野の人材で、高度な技術教育が必要となる。

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」「データサイエンス」「人材育成」の3つのキーワード

「研究開発」

- ✓ 新型コロナ後を見据え、キーワードは、「デジタル化＝AI」、「リモート化＝IoT」、「省人化＝ロボット」とし、引続き、研究開発に注力する。
- ✓ 1社完結の研究開発以外に、大学や国の研究機関との最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。

「データサイエンス」

- ✓ データを軸として情報科学、統計などのアプローチから有益な知見やビジネス上の便益を見出すことで、さまざまなビジネス変革の可能性を提案する。
- ✓ ITやデータ分析などの技術だけではなく、その土台となるドメイン知識やビジネススキルを身に付け、お客様の懐に深く入り込み、お客様ビジネスに貢献する。

「人材育成」

- ✓ AIを中心に技術教育を強化。ディープラーニングに関する知識を有し、「事業に活用するジェネラリスト人材」「ディープラーニングを実装するエンジニア人材」の育成を目指す。特に、実プロジェクトでの成果を積重ねる。
- ✓ 知的労働者の成長を促す働き方改革（ワークライフバランス）にトライする。

2022年3月期業績見通し

需要構造の変化が継続するものと予想し、売上高は微増の計画

(単位:百万円)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,525	6,700	102.7
売上原価	4,676	4,720	100.9
売上総利益	1,849	1,980	107.1
販売管理費	838	930	111.0
営業利益 (営業利益率)	1,011 (15.5%)	1,050 (15.7%)	103.8
経常利益 (経常利益率)	1,054 (16.2%)	1,090 (16.3%)	103.4
当期純利益	727	750	103.1

売上高 前期と同様、需要構造の変化が継続する中で、戦略的な受注を優先するため、微増の計画

売上原価 設備投資や待遇向上など人件費の増加を見込む

販売管理費 先端技術の教育拡充、研究開発への投資などにより、増加を見込む

営業外損益 前期並みを見込む

2022年3月期B F別業績見通し

社会基盤システムB F、宇宙先端システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発は前期並みを見込むが、需要構造の切替時期にあたり、全体では減少	➡
インターネット	民間企業向けの大型案件に不透明感があり、減少	➡
社会基盤システム	医療を含めた官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調で、増加	➡

注力分野の状況

(IoT・AI・ロボット)

注力分野 | IoT・AI・ロボット

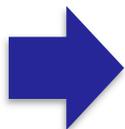
研究開発テーマ「ユビキタス (Ubiquitous)」

IoTの基盤技術はリアルタイム技術

重点テーマ



ユビキタスを
具現化した技術



ユビキタスの
キーテクノロジー



ユビキタスの
究極の端末

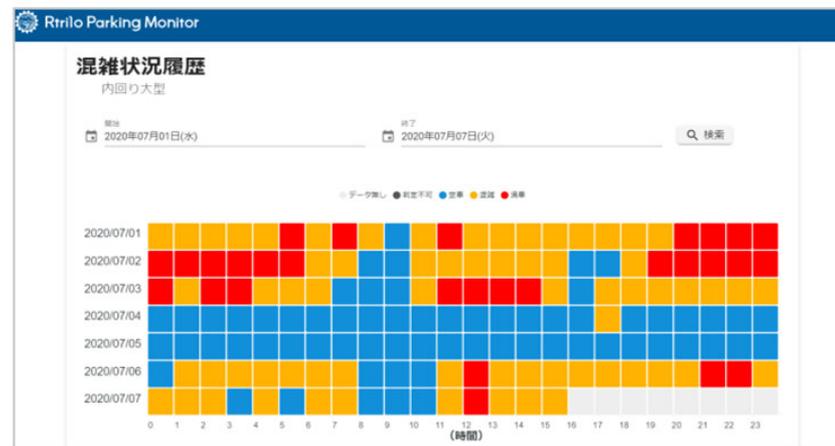
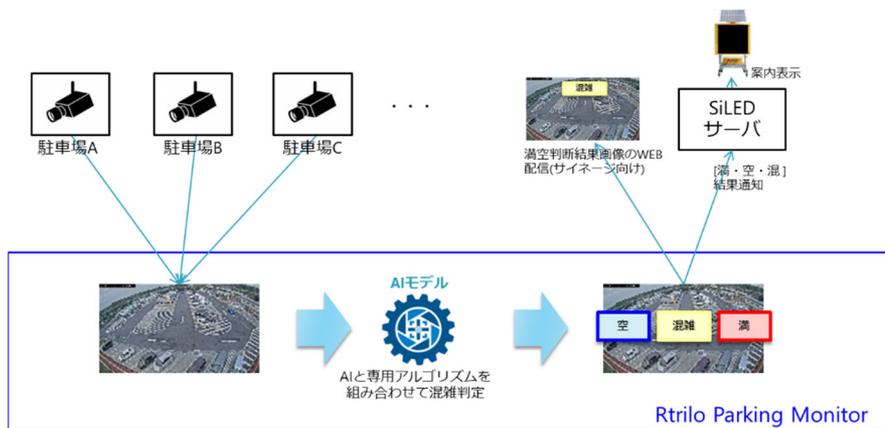


I o T : 駐車場混雑状況判断サービス



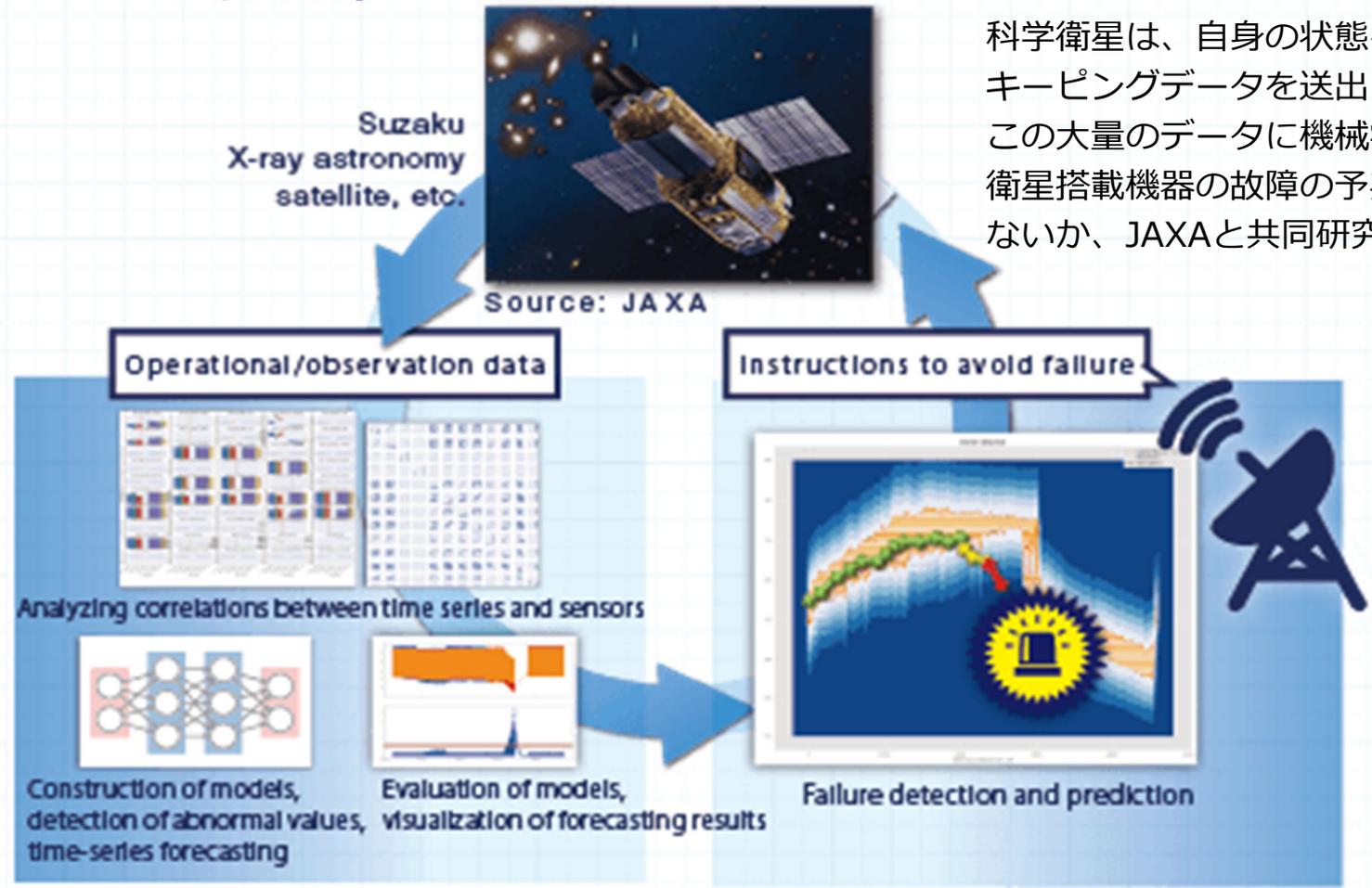
「Rtrilo Parking Monitor」 — 低コストでの導入、環境負荷軽減を実現

駐車場に設置されたカメラの画像をもとに、事前に学習したAIモデルと独自のアルゴリズムを利用して混雑状況を判定し、WEBや案内板などを介して利用者に情報提供します。駐車場全体を俯瞰するカメラ1台で混雑状況の判断が可能になるため、駐車区画ごとにセンサーを設置する従来の情報収集手法に比べて機器の設置や維持が容易で、低コストでサービスの導入が可能です。



A I : 科学衛星故障解析

機械学習を用いた運用データの解析による宇宙機の故障解析の研究 (J A X A 共同研究)



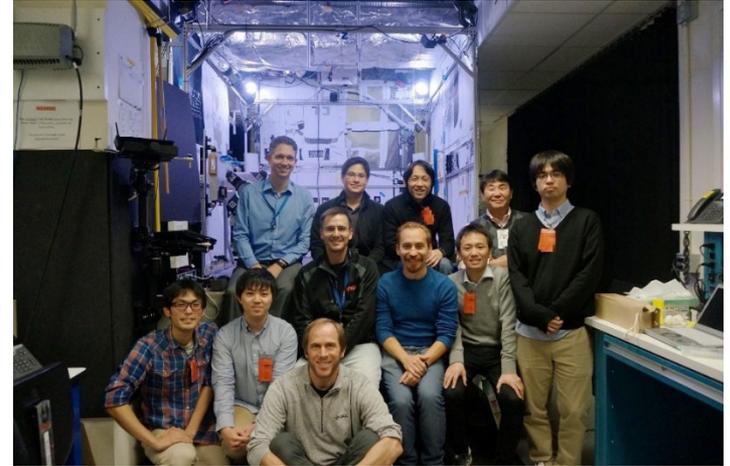
科学衛星は、自身の状態を表すハウスキューピングデータを送出しています。この大量のデータに機械学習を適用し、衛星搭載機器の故障の予兆を検出できないか、JAXAと共同研究をしています。

ロボット：「きぼう」ロボットプログラミング競技会に協賛

JAXA主催 第1回「きぼう」ロボットプログラミング競技会の決勝大会に協賛しました。

国際宇宙ステーション船内のドローンロボットを動かすプログラムを開発し、与えられた課題を解決する速さと正確性を競う、学生向けの国際的なプログラミング競技会で、2020年10月に開催された決勝大会には、国内予選を勝ち抜いた日本を含むアジアの7つの国と地域の学生がオンラインで参加しました。

セックは2019年度より、この競技会用のソフトウェアプラットフォームやポータルサイトの開発と運用に携わり、各国の予選会の開催も支援しました。



画像提供：JAXA

詳細は当社ホームページのニュースリリースもあわせてご覧ください。

- ✓ 第1回「きぼう」ロボットプログラミング競技会に協賛します（2020年9月30日）
<https://www.sec.co.jp/ja/news/news6194215174553563065.html>
- ✓ 第1回「きぼう」ロボットプログラミング競技会が開催されました
<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-2155582625935834380.html>

注目技術（エッジコンピューティング）

ロボット+AI



ロボット+知能処理



ロボット+自律移動

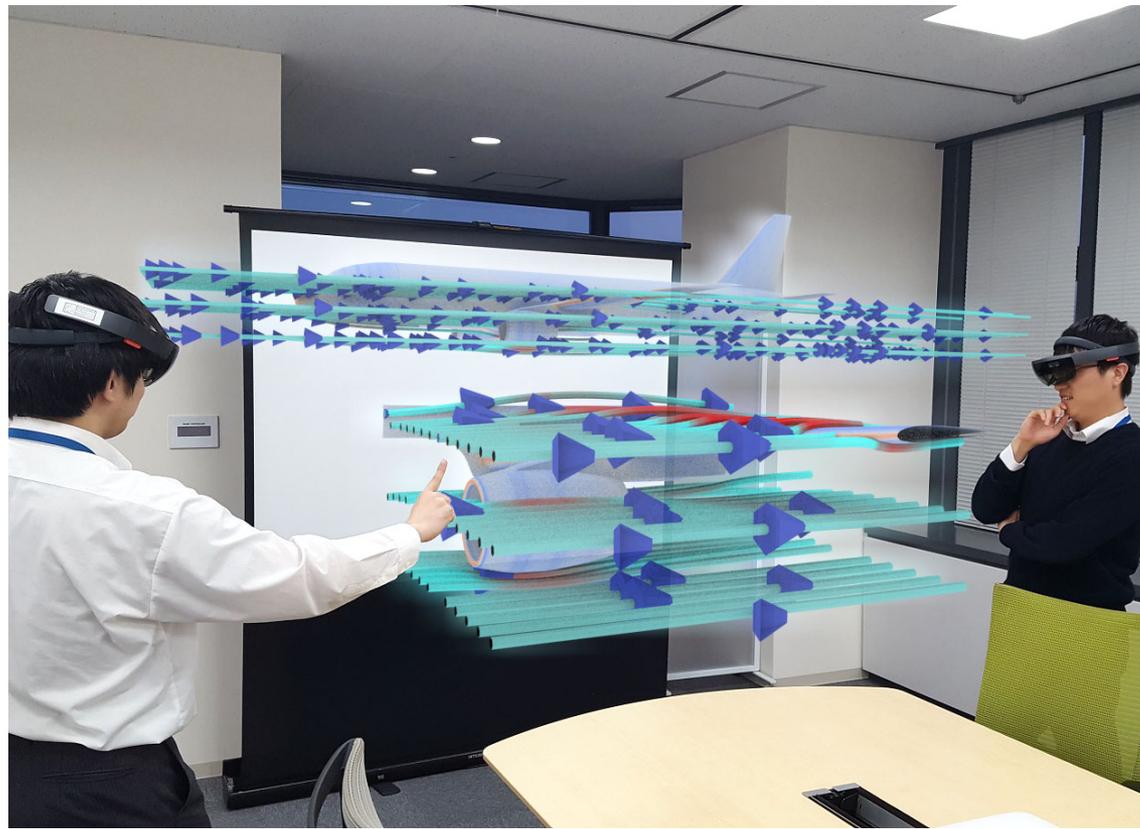


ロボット+IoT

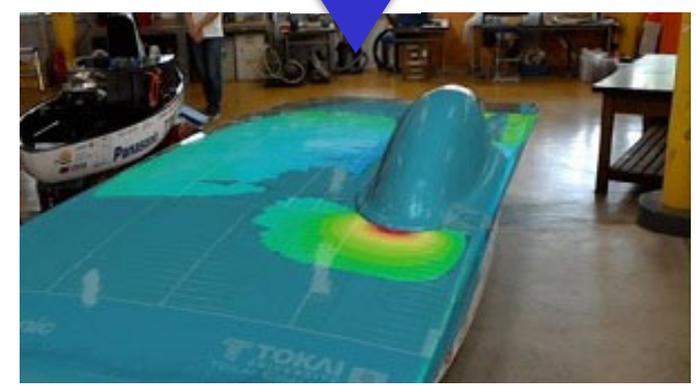


現実世界に仮想のデジタル情報を重ね合わせた、 新しいデジタル世界にアクセスする技術

MR技術を用いた次世代可視化の検証
(JAXA共同研究)



ソーラーカーの空力特性解析
(東海大学へ技術協力)



ロボットビジネスの状況

実績 (2021年3月期 売上高約 1,712百万円)

← 前年同期約 1,410百万円 ← 前々年同期約 1,137百万円)

サービスロボットの研究開発案件が大幅増、車両自動走行も増加し、全体で前期比21%増

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行の研究ソフトウェア案件が堅調
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件も増加
- 大手自動車、重工、機械、電機、建築、通信、国の研究機関などが大幅に増加
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボット、宇宙ロボットなど広範囲
⇒ 顧客層の拡大傾向が継続

今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化（ソフト会社しかできない）ビジネスの推進
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

持続可能な社会の実現のために

当社は、ソフトウェア開発の事業活動を通して社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献することをサステナビリティ推進の考え方としています。
 社会課題を起点とした事業機会創出にも取り組むことで、より一層 SDGs の達成に貢献していきます。



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

E 環境

セックは2000年12月に環境マネジメントシステム（ISO 14001）の認証を取得しました。
 以来、「地球資源が有限であることを認識し、環境の保全に永続的に配慮する」ことを会社方針とし、企業活動と地球環境の調和を目指して、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいます。



S 社会

- 研究開発
 私たちの生活を安全、安心、快適にし、環境負荷をも軽減する「ユビキタス」をテーマに取り組んでいます。
- 人材育成
 プロに相応しい挑戦の機会と魅力ある待遇を提供しています。
- エンジニア育成
 当社のプロ育成ノウハウを学校や企業に提供しています。
- 次世代育成支援
 子育てサポート企業として、「くるみん認定」を取得

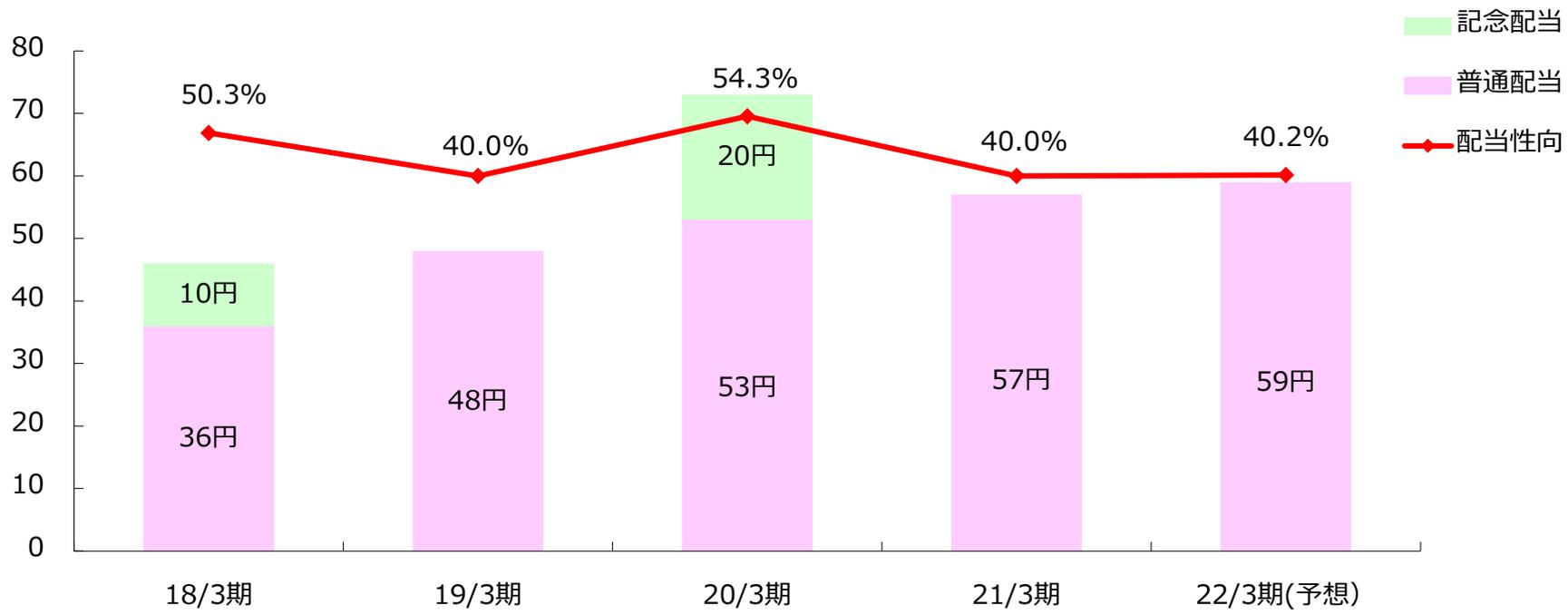
G ガバナンス

- コーポレートガバナンス
 審議に十分な時間をかけた取締役会を開催することと、監査等委員会監査と内部監査による経営チェック機能の充実を重視しています。
 透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行う仕組みを構築・維持・改善し、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいます。
- コンプライアンス
 「法および社会規範を遵守」することを会社理念の行動規準に定め、社員と共有しています。



配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2022年3月期は1株当たり59円の配当予想とする。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。

● この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。